

「三宝通信」法話

浄土宗 天上山大念寺
住職 大島祥明



「相手を害しない

生き方をする」

死んで、終わりではありません。

殺して、終わりではありません。

死んでも、心は変わりません。

悔いなく、未練なく、恨みなく、

恨まれることもなく、生きることに。

死んでも、心はいまのまま。

だから、この「いま」が大切なのです。

仏教では、心を育てる基本として、他

を害しないこと、傷つけないこと、相手

の心を痛めないことを教えています。相

手を苦しめれば、その行為によって自分

苦しむことになるのです。さらには、相手

の恨みを受け
てまた苦しむ
ことになりま
す。

ですから、相手の恨みつらみを買わないように、気をつけることです。なにかの拍子で相手の心を害してしまったとき、そういうときはすぐに清算しておくことです。早く謝って償いをしておくことです。

心を軽くしておきましょう。そうでないと、自分の心に影響があるからです。もしも相手が死んでしまったら償えませんが、手遅れなのです。

● P H P 研究所刊『死んだらおしまい、ではなかった』より。

■ 1944年大阪市生まれ。仏教大学・同大学院修了(文修)、僧正。87年12月、船橋市上山町に大念寺開山。08年5月、同市馬込町に新寺移転。